

□ 吹奏楽

中橋愛生

■国内団体の動き

プロのバンドの活動では、Osaka Shion Wind Orchestraの奮闘がまず目についた。4月1日に一般社団法人から公益社団法人に変わり、5月26日に初となる京都での定期演奏会、7月16日にはサクソフォンの本多俊之を迎えてアクロス福岡で公演と、活動の幅を広げる。広島ウィンドオーケストラは結成25年を迎え、6月24日に高関健の指揮でペリオーズ「葬送と勝利の大交響曲」を合唱付きで演奏、11月29日には東京公演で西村朗への委嘱作などを音楽監督・下野竜也の指揮で初演するなど意欲的。東京俊成ウィンドオーケストラは11月23日に話題の新鋭カーチュン・ウォンを指揮者に招いての定期演奏会で、その翌日には第3回となる大阪定期も行なう。フィルハーモック・ウィンズ大阪は3月12日にそれまでバイスコンダクターだった松尾共哲が正指揮者に就任しての記念公演でトロンボーンのリョセフ・アレッシと共演。近年は新しいプロ・バンドが続々と生まれているが、今年も4月8日に愛知県立芸術大学の卒業生を中心に結成された小編成吹奏楽団「ウィンドアンサンブル愛知」が旗揚げ公演（指揮：矢澤定明）、全国各地の音大卒の若手演奏家を中心に構成されたFeLice Wind Ensemble（指揮：矢内佑汰）が6月1日に第1回定期演奏会を行なった。珍しい形態では8月16日に国際協力機構の広報を担うプロ吹奏楽団として「JICA東京SDGs吹奏楽団」が正式発足している。

官公庁のバンドでは、航空自衛隊航空中央音楽隊が9月下旬にドイツ国際軍楽祭とオランダ国際軍楽祭に続けて参加。11月24日と25日には警視庁音楽隊がバンコクで開催された「第23回世界のお巡りさんコンサート in タイ」に参加した。今年は海上保安制度が制定されて70年かつ海上保安庁音楽隊が創設30周年であり、それを記念した海上保安庁音楽隊第25回定期演奏会でフィリップ・スパークへの委嘱作品を初演。

音楽大学の活動では、武蔵野音楽大学weが12月11日にトランペットのクリストファー・マーティンとの共演を含む3曲の初演を行なう定期演奏会を行い、同21日にアメリカ・シカゴで開催されているミッドウェストクリニクにも出演したのが大きなトピック。1月7日には東京藝術大学が130周年記念音楽祭藝大プラスで豪華な卒業生たちによる吹奏楽演奏を披露。11月1日には東邦音楽大学・短期大学の卒業生や教員で構成された「東邦音楽大学ウィンドオーケストラ・スペシャルユニット」が「川越ウィンドシンフォニカ」と改名しており、今後の活動が気になる所。

■イベント

今年国内で行なわれた最大のイベントは、7月の19日から22日にかけてアクティビティ浜松を会場としたアジア・太平洋吹奏楽指導者協会大会（APBDA）の第20回記念大会である。9か国3地域のバンドが多数来日し、コンサートとシンポジウムが行なわれた。昨年までは各地でラ・フォル・ジュルネに関連した吹奏楽の演奏が聴けたが、今年は規模が大幅に縮小。代わりではないが、6月24日には調布国際音楽祭のオープニングセレモニーに芸劇ウィンド・オーケストラ・アカデミー（指揮：鈴木優人）が出演している。

マーチングの新しい大会として1月28日に第1回カラーガー

ド・マーチングパーカッション全国大会が日本マーチングバンド協会の主催で行なわれた。6月24日には全国高校野球選手権100回大会を記念して野球応援に特化した「野球応援コンサートEXPO」が開催され、愛知工業大学名電高校・大阪桐蔭高校・作新学院高校・拓殖大学紅陵高校・東海大学付属相模高校・習志野高校の吹奏楽部が出演、のちにDVDが販売された。吹奏楽と野球応援は深い関係があるが、その応援演奏そのものが注目を集めてきたのは特筆すべきことである。

■海外との交流

既にいくつかの団体の海外での活動を記したが、それ以外を。近年は台湾との交流が盛んで、今年も例外ではない。1月の4日から8日にかけて福島県吹奏楽連盟が選抜メンバーによる吹奏楽団で台湾演奏旅行、12月14日には嘉義市国際管樂で八王子学園八王子高校吹奏楽部が演奏、12月21日には近畿大学吹奏楽部が演奏旅行で訪れている。変わった形ではアニメやゲームの音楽を主に演奏している「秋葉原区立すいそうがく部！」が8月4日から5日にかけて台湾バンドクリニクに出演を果たしている。同じくエンターテインメント系バンドでは2月1日から4日にかけて「Niconico Sounds in BRASS」が中国・河南省で開催された国際芸術祭に招待されている。同バンドはこの数年続けて各国を訪れており、サブ・カルチャーと吹奏楽の結びつきと国際化が興味深い。

アジア圏では他に遊学館高吹奏楽部が12月7日に韓国・釜山広域市で行なわれた日中韓の文化交流イベント「東アジア文化都市2018」の閉幕式典に出演。それ以外の地域では1月2日に京都橘高校吹奏楽部がアメリカのカリフォルニア州で行なわれているローズパレードに6年振り2回目の出場。ウィーンにも、3月25日に愛知工業大学名電高校がウィーン学友協会で開催された演奏会を開催し、8月下旬には日本高等学校吹奏楽連盟が全日本特別選抜吹奏楽団を第20回記念公演としてウィーンに派遣している。

日本のODAとして2015年からパプアニューギニアの軍楽隊創設に陸上自衛隊中央音楽隊が中心となって取り組んでいたが、それが今年の11月17日のAPECでの演奏で一つの成果を挙げた。それを記念して外務省が公募した行進曲が贈呈されている（作曲：高橋宏樹）。

海外団体の来日としては、11月21日から二日間に渡って日本武道館で行なわれた自衛隊音楽まつりに、フランス海軍軍楽隊・シンガポール軍軍楽隊・在日米陸軍軍楽隊・米海兵隊第3海兵機動展開部隊音楽隊がゲスト出演している。3月下旬には救世軍ニューヨーク・スタッフ・バンドが二度目の来日ツアーを行なった。ほか、アンサンブルでは4月下旬にレ・ヴァン・フランセが、6月中旬にベルギー金管アンサンブルが、10月下旬にカナディアンプラスが、それぞれ来日している。

■その他

5月27日に行なわれたクードヴァン国際吹奏楽作曲コンクールで、第1位に芳賀傑、第3位に伊藤康英が入賞したのは吉報。5月25日には全日本吹奏楽連盟が創立80周年を迎えたが、その主催事業にして日本の吹奏楽の根幹ともいえる吹奏楽コンクールの全国大会会場として2011年まで長らく使用されていた（翌年から耐震強度不足のため客席への立ち入りが禁止されていた）普門館の解体が12月に開始された。それに先駆けて11月初旬に行なわれた一般公開には多数の人が訪れ、懐かしんでいた。平成の終わりとともに時代の移り変わりが感じられるなか、12月27日に文化庁より「文化庁活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が発表された。練習時間の大幅な削減などが求められており、今後の学校吹奏楽の在り方は一つの転機を迎えよう。